

## 研究機関名：旭川医科大学

承認番号	17129
課題名	デクスメデトミジンの周術期・検査・治療時等における有用性の検討
研究期間	西暦 2017年 9月 27日～ 2022年 7月 31日
研究の対象	2017年8月～2022年7月31日までに当院で手術や検査時にデクスメデトミジンを投与された方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、身長、体重、診断名、手術・検査内容、デクスメデトミジンの投与量、副作用の発生状況等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input checked="" type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
研究の意義、目的	<p>現在の麻酔・鎮静は、眠り薬（プロポフォールなど）と痛み止め（フェンタニルなど）の二種類のお薬を組み合わせで行っています。2004年に発売されたデクスメデトミジンというお薬は、眠り薬と痛み止めの両方の効果が得られるお薬です。その効果から手術中や検査中にも投与されることで、他のお薬の量を減らすことが出来、血圧や心拍数などが安定することが期待されています。その効果を検討するために、手術室や検査室での使用による利点と欠点を明らかにする調査研究です。通常の投与方法より精度を上昇させるため、コンピュータを利用して血液濃度を算出したり、投与量の算出・支援をしたりします。</p> <p>デクスメデトミジンは、鎮静・鎮痛作用を有するにもかかわらず呼吸抑制のない薬物であるため手術中や検査中における有用性の高いお薬です。他の麻酔薬の投与量を減らす効果、他の痛み止めの薬の投与量を減らす効果などがあるため、患者さんが手術中や検査中に快適に過ごせたかどうかなどを0（不満足）～100（大変満足）の数値等で判定します。</p>
研究の方法	<p>本研究に参加していただく患者さんは、デクスメデトミジンを投与することが予定されている方です。あなたの手術や検査における鎮静方法として標準的な方法ですので、この研究に参加することによる不利益はありません。通常診療における血液検査の際などに、余った血液を 2ml 程度利用し、デクスメデトミジンの血中濃度を測定します。この結果から他の眠り薬や痛み止めの薬を合わせて投与したときの適切な投与量を推測することができます。手術中は体の中の酸素の量や貧血の有無などの把握、電解質測定を行うために手首や肘の動脈から点滴を留置します。デクスメデトミジンの血中濃度測定は、この血液の中の酸素の量や貧血の有無などを確認するために行った採血のうち、余った血液を使用しますので、新たに注射をするなどの侵襲を伴うことはございません。血液の収集はデクスメデトミジンの投与開始約 15 分以降に適宜行います。</p>
その他	
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さ

い。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座

住所：旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

電話：0166-68-2583

研究責任者：旭川医科大学病院 麻酔科蘇生科 菅原 亜美